



Hamanako ふれす

(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー広報紙『Hamanakoふれす』

Welcome to
Hamamatsu & Lake Hamana



GO TO
TRAVEL

vol.
10

2023 WINTER

第20回浜名湖サイクルツーリング/ハマイチ2023



2023年
3月18日(土)19日(日) 開催決定

シーズン到来のサイクリングは陽春の浜名湖サイクリングからスタート「第20回浜名湖サイクルツーリング/ハマイチ2023」を開催します。自転車メーカー協力のもと、大試乗会も同時開催予定です。ぜひ「ハマイチ」にご参加ください!

※雨天実施、天災・荒天・新型コロナウイルス感染状況悪化の場合は中止



詳しくは
「ハマイチWEB」
をチェック!



当財団での どうする家康 浜松 大河ドラマ館 チケット販売について

令和4年12月23日より販売を開始

当財団(ザザシティ中央館5階)と浜松市観光インフォメーションセンター(JR浜松駅構内)で販売します。

※小人は、浜松城が中学生以下入場無料のためセット券はございません。

| 入場券種類 | 料金 | |
|------------------------|-----------|------|
| 事前販売券 ※2023年3月17日まで | 大人 | 640円 |
| | 小人(小中学生) | 320円 |
| | 大人浜松城セット券 | 740円 |
| 入場券 | 大人 | 800円 |
| | 小人(小中学生) | 400円 |
| | 大人浜松城セット券 | 900円 |



イベント
施設設営

建設仮設材
レンタル



site 株式会社サイト
浜松市西区伊左地町2790-1 ☎(053)485-4126(代) 掛川市大坂6369
http://www.your-site.co.jp ☎(0537)72-4129

東遠営業所

いつも心を「晴朗」に



社会保険労務士法人 杉浦会

〒430-0901 浜松市中区奥馬4-13-17

TEL(053)469-1000 FAX(053)469-1111

URL http://www.sugiyura.net E-mail sr@sugiyura.net

●公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー
〒430-0933 静岡県浜松市中区鍛冶町100-1 ザザシティ浜松中央館5F TEL.053-458-0011
●浜松市観光インフォメーションセンター
JR浜松駅構内 TEL.053-452-1634 FAX.053-413-5920

CONTENTS

- P2,3 新年のごあいさつ
- P4,5 対談企画 Wave~波起こし人~
- P6,7 事業報告
- P8 ハマイチ2023
大河ドラマ館チケット販売

アフターコロナへ向けて
(インバウンドの取り組み)

2022年10月の日本への入国規制緩和に伴い、徐々にインバウンド需要が回復しつつあります。11月には台湾で開催された国際旅行博へ静岡県台湾事務所とともに当財団も出展し、浜松・浜名湖地域をPRしました。また、旅行博に先立って行われた訪日旅行商談会では台湾の旅行社が100社以上も参加し、訪日旅行への期待の高さをうかがわせるものとなりました。中国市場の早期回復が見通せないなか、台湾や東南アジアを中心にインバウンド誘客を図って参ります。





新年のごあいさつ

公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー
理事長 齊藤 薫



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、幸多き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて昨年は、新型コロナウイルス感染者が一時期減少したものの、ウイルスの変異により再び感染の波が発生するなど、一向に収束の兆しが見えない状況が続きました。一方で、国において感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方向性が示され、ワクチン接種や感染症対策を推進しながら、各地で大規模イベントが再開されるなど「ウィズコロナ」の新たなフェーズを迎えた年でもあります。

観光分野におきましても県民割、地域割が実施され、10月には全国旅行支援が始まりました。インバウンドも水際対策が段階的に緩和され、同じく10月に入国者数の上限が撤廃されるなど、多くの外国人観光客が来日するとともに、国際会議等の再開の動きもみられました。

また当地域では「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」開設の準備が進み、前売りチケットの販売開始や関連イベントが数多く開催され、いずれも大きな反響を呼び、これらを通じてあらためてこの地域が注目いただいていることを実感したところでございます。

本年は1月8日の大河ドラマ「どうする家康」の放送開始、そして同22日の大河ドラマ館のオープンを皮切りに全国各地からたくさんの方々を当地域にお迎えすることとなります。さらに、来年2024年3月には浜名湖花博20周年記念事業の開催が予定されており、観光を通じて当地域の元気を取り戻すための絶好の機会となります。

皆様ご存じのとおり、ここ浜松・浜名湖地域は、歴史、文化、自然、産業、食とどれをとっても全国に誇れる観光資源が豊富な地域です。この機会を逃すことなく、お越しいただく皆様におもてなしの気持ちをもって接し、当地域の魅力を存分に味わってご満足いただき、一人でも多くの方に再び当地域に足を運んでいただけるよう、関係者一丸となって取り組んでいかなくてはなりません。

当ビューローにおきましても、皆様と共に活気あふれる浜松・浜名湖地域として、将来に向け持続的に活力ある豊かな地域となるよう、引き続き全力で邁進してまいります。

会員の皆様におかれましても、本年も一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



浜松市長
鈴木 康友

あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は、市政運営に多大なるご協力を賜り心より感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会経済に及ぼす影響が長期化する中、ワクチン接種等の感染症対策が進んだことで、3年ぶりに行動制限が無いゴールデンウィークと夏休みを迎えるとともに、10月には入国制限が緩和され、国際的な人の往来が再開されました。また、本市においても、浜松まつりの風揚げを有観客で開催するなど、アフターコロナに向け、社会・経済活動を再開し、日常を取り戻す第一歩を踏み出した年となりました。

一方、新型コロナウイルスについては、新たな変異株の登場や第8波による感染者増など依然として予断を許さない



湖西市市長
影山 剛士

あけましておめでとうございます。輝かしい希望に満ちた新春を健やかにお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により地域経済・社会活動に大きな影響が出る中、市民の皆様の徹底した感染症対策、何よりも医療従事者の方々にご尽力いただいております。引き続き基本的な感染対策を皆様には徹底していただき、感染を避ける行動をお願いしたいと思います。

そのような中でも、感染対策と社会経済活動との両立を図るため、昨年の8月20日には、3年ぶりとなる湖西おいでん祭を開催することができ、多くの方にご来場いただきました。また、2022年は湖西市制50周年の記念すべき一年であり、

状況にあり、ロシアのウクライナ侵攻の影響による原油価格の高騰や物価高、急速に進んだ円安など日本経済を取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした中、本年は、大河ドラマ「どうする家康」の放送が開始され、家康公ゆかりの地である本市に大きな注目が集まる重要な1年となります。

本市においては、この好機を最大限に活用するため、「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」を核とし、観光誘客を図るとともに、本市の多様な観光資源を巡る市内周遊を促すことで、観光関連産業の活性化を図ってまいります。また、官民連携で組織する「家康プロジェクト推進協議会」や宿泊業や飲食業など観光関連事業者の皆様とともに、観光客に対する「おもてなし」体制の充実を図ることで、観光リピーターの獲得と観光目的地化を目指してまいります。

2024年には、浜名湖花博20周年記念事業の開催も予定されており、観光リピーターの獲得と観光目的地化を図る絶好の機会でもありますので、会員の皆様には、本年も引き続きご支援、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き一年となりますことを心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

一年を通じて「こさいの日」宣言や、PR新キャラクター「うなぼん」の誕生など、多くの記念イベントや未来へつながる事業を実施しました。

その中の一つ、地元産品のブランド化事業では、県内一の生産量である市内の豚肉の一部を新たに「湖西ポーク」と名付けました。じっくり愛情をもって育てられた自慢の豚肉、市内はもちろん市外からも引き合いを頂き、ご当地グルメプロジェクトと合わせ地元産品のブランド化を目指しています。

地域活性化に繋がる事業として、現在「新居弁天地区活用事業」を進めており、令和5年度中の同地区の開発を予定しています。この地域は、過去に観光客で賑わっていた地域ですが、昨今は、観光客が減少しており、この事業を契機に、民間事業者と連携し賑わいを創出しようとするもので、今後にご期待いただければと思います。

湖西市では車載用電池の一大拠点である「湖西バッテリーパーク」の開業に向けた準備が進められています。雇用が増えるのに合わせ、職場の近くに住んで働いていただく「職住近接」を一層促進してまいります。

本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

Wave



浜松・浜名湖地域に新しい波(New Wave)を、大きな波(Big Wave)を起こそうと活躍される方を、当財団COOとの対談形式でご紹介するコーナー。

第10回のお相手は、全国に名だたるミカンブランド「三ヶ日みかん」でおなじみの三ヶ日町農業協同組合代表理事組合長の井口義朗さん。対談の前に2021年より稼働した、新選果場「JAみっかび柑橘選果場」を見学させていただきました。約80億円をかけた東京ドームの半分の面積を誇る広大な選果場。AIを活用し、高度にオートメーションされた場内に整然と流れる大量のミカンを見ていると、時間が過ぎるのも忘れてしまいそう。うっかり対談のお約束の時間に遅れそうになり、慌ててお伺いした私たちを温かな笑顔で迎えていただき、和やかな雰囲気での対談、今回もスタートです!!

(取材日:令和4年12月6日)



竹内 貴組合の沿革と組合長のご経歴をお聞かせください。

井口 当地域ではかつて、ミカン生産者一人ひとりがそれぞれ商人と取引していました。しかし人によって取引条件が違いため、みんなが集まって一緒に売ろうということで昭和35年に154人で三ヶ日町柑橘出荷組合を設立し、そこから現在の形に向かって動き出しました。ブランドを作っていくということは、その当時はまだ考えていなかったと思うのですが、初代の組合長が組織化し品種を統一し、「三ヶ日のミカン」を組織としてさらなる進化をしていこうということで、いろいろ苦労を重ね築き上げてくださったのがこの出荷組合です。私自身は、昭和53年に入組して、ミカンの技術員、営農や総務を経験してきました。そして55歳の時に専務になり6年間務め、その後組合長として2年になりますので役員になってからは通算で8年となります。昭和34年に生まれてから「三ヶ日一筋」で、我が家でもミカンを作っていますからいわば「三ヶ日みかん一筋」です。

ミカンの産地としての三ヶ日

竹内 私の母が香川県出身なので、冬になると箱に入った曾保のミカンを送ってくるんです。毎日のようにミカンを食べ、特に年末はこたつに

入ってミカンとともに紅白歌合戦という生活を繰り返していたので、小さい頃から、ミカンが大好きなのです。また、旅行会社勤務のときには和歌山県を担当してまして、ご存知の通り有田のミカンが有名で、ロードサイドのあちこちでパケツに入れて売られている光景を常に目の当たりにしていましたから、私自身にとってミカンは大変身近な存在なのです。ですから、「三ヶ日みかん」というブランドは、もちろん知っていましたし、かつて住んでいた関西でも流通もしているのですが、この地へ2022年4月に赴任し、初めて迎えたミカンの季節に、その「三ヶ日みかん」がロードサイドに立ち並んだ木にたわわに実っているのを拝見し、肌で「三ヶ日みかん」を感じているところ。ここ三ヶ日における地域的な特徴というのはどのようなものでしょうか?

井口 ミカンは、静岡から西へ目を向けると和歌山を通して愛媛、大分、熊本、佐賀、長崎に抜けていくように、ちょうど三ヶ日のあたりから九州に向けて定期をおいてみると、その間一帯に産地があるのです。愛媛にしても、和歌山にしても、九州各地もそうですが、山にミカンがなっていてそのまま海へ繋がっていくという地形、特に愛媛県は山のミカンが転がっていき、そのまま目の前の海で養殖している魚が食べるのではないかと

いうくらい、ミカンが海に近い急斜面になっています。つまり海に近い山がある、地質で言うと古い層の土壌が重なった地域は水はけも良いのでそのような条件が整ったところが産地となっています。三ヶ日地域も水はけが良いのですが、海から距離があり、なだらかな地形にもたくさんミカンが育てられており、そういう意味では全国的には珍しい産地なのです。

AIを導入した日本最大規模の選果場

竹内 今日こちらへお邪魔する前に拝見した素晴らしい選果場、あれはもはやファクトリーですね。「目から鱗」というか「目からミカンの皮」で、三ヶ日みかんの印象が、ものの見事に変わりました。本当に圧倒されました。

井口 ありがとうございます。ご覧になられた方が一様にそうおっしゃってくださいます。ぜひ子供たちに見てもらい、農業でもこのような先進的な取り組みをしているのだということを知ってもらいたくて、見学を受け入れています。昨年稼働したものの、コロナ禍によりかかないませんでした、今年になってようやく見ていただけるようになりました。

竹内 先ほども小学生の児童の皆さんが、ニコニコしながら目を丸くして見学していたのがとても

印象的でした。子どもたちのみならず、大人が見ても驚きの連続で大変なインパクトがありました。

井口 小中学校の社会科見学のほか、企業の研修や他産地の視察なども受け入れております。今までの旧選果場は見学を前提とした構造ではなかったため、隅々まで安全に見ていただくことが困難だったのですが、今回は整備された通路から安全に見ていただくことが出来ますので、多くの人を受け入れていく予定です。稼働は毎年11月の初旬から始まって、最終が4月の初旬までです。ピークは12月から1月ごろとなります。稼働していない時期はタブレットを活用して選果場内を見学しますが、できれば稼働しているリアル感を感じていただきたいです。ですからピーク時に見学に行くと邪魔になるかなということではなく、逆にぜひ来ていただきたいと思っています。

竹内 昨年稼働されたということですが、地域の皆さんの反応はいかがでしたか?

井口 建設時点から、三ヶ日町にはないような大きな建物であるということで地域の皆さんの関心も高かったようです。出来上がってから生産者の方だけではなく、地域の人たちにも見てもらっていますし、自治会とも災害時の避難所として協定を結んでいますので、地域の皆さんにも受け入れていただけていると思っています。生産者の皆さんにとっても、建設にあたって今まで以上の「作業軽減」をコンセプトとし、AI選果機を導入することによって出荷前の家庭での選果作業等を軽減することができたので、そういう面で喜んでいただけているのではないのでしょうか。

竹内 AIを活用した画期的な選果を実現されたとのことですが、ご苦労もあったのではないですか?

井口 人工知能(AI)は全て自分でやってくれるのではなく、まず我々が一つひとつ教えないといけないのです。稼働の前に3年間分のデータを入れ込む作業をしました。この傷はこういう原因によるものだというのを教え込ませるためのサンプルを何千キロというくらい取って、いろんなバリエーションのサンプルをメーカーに持っていき、実際にラインに流して画像で撮らせてこれは何、これは何というのを学習させる作業を3年間やってきました。それでも稼働当初は完璧ではないのです。ついAIというと最初からなんでも出来てしまうと思ってしまいがちなので、そこにイメージとの若干のギャップを感じるかもしれませんが、稼働してからさらに色々なケースを学習し、どんどん進化し発展していきます。それによって生産者の皆さんにフィードバックする分析データもより期待に沿えるものになっていくものと思います。



JAみっかび柑橘選果場

ブランド価値の向上やスマート農業の実現を目的に、柑橘選果場としては日本最大規模で2021年11月に竣工しました。人工知能など最新鋭の設備が導入され、日量500トンの選果能力があります。施設内では人の目に加え、高精度なセンサーと人工知能により一つの果実の糖度や外観が計測され、消費者へ届く果実の品質を保っています。



詳しくは、ぜひこちらから!

<https://mikkabi.ja-shizuoka.or.jp/mikan/flow/>

三ヶ日みかんの課題と展望

竹内 現在抱えている課題はありますか?

井口 気候変動、温暖化というものが及ぼす影響は少なくありません。ミカンは気候が温暖な地域の果物ですが、暖かくなりすぎるとは駄目なのです。四季がしっかりあって梅雨の時期には梅雨の雨が降り、寒い時期はしっかり寒くならないといけません。しかし昨今は梅雨の時期に雨が少なく乾燥して、7月や8月に集中的に雨が降りますよね。そういう面では、露地栽培で四季を感じて育ち、1年に1回収穫されるといった作物は非常に作りにくくなっています。また、後継者の問題もあります。現在平均で68歳くらいでしょうか。ミカンは新規就農が非常に困難な分野で、既にある農園を引き継ぐ、いわゆる親元就農となりますから後継者をいかに確保していくかが課題となっています。これらの課題に取り組みつつ、新しい取り組みも必要だと考えています。

竹内 三ヶ日みかんのような柑橘類、英語ではマンダリンオレンジですが、海外、例えば東南アジアなどでは見たことがないのですが。

井口 今、日本のミカンは全国で70万トンあるのですが、実は韓国の済州島で50万トン、中国の揚子江の周辺で2000万トンあるのです。中国では加工工場が多く缶詰にしてロシアや北欧に送られているので東南アジアには送られていないのです。昨今の貯蔵・輸送技術も向上しているので我々は送りたいと考えていますが、柑橘類は各国とも防疫が厳しくそれをクリアしなくてはなりません。ところでミカンはオレンジ色ですよね。中国の人たちが、春節のときに大移動しますが、その時お墓に飾るのにはこのオレンジ色がいいらしいのです。だからこの時期はすごく売れるのです。たしかに売れるのはその一時期だけとなってしまっていますが、実はこの時期にミカンを送り込める地域は国内で三ヶ日だけなのです。そこを狙って輸出をかけようかということも考えています。またミカンは、βクリプトキサンチンという、抗酸化作用の一種が多く含まれており、また血圧の高めの方の血圧を下げる機能のあるGABAも豊富に含まれていますので健康に良い面も売り出していこうと思っています。

竹内 三ヶ日みかんをブランドとして育て、世界に発信しようというご努力は本当すごいと思います。ぜひ応援したいです。

井口 若い人たちが摘果した「青ミカン」をお酒にしてくれたり、当地域を訪れた人にミカンを感じてもらおうとミカンの匂いをフレグランスとして製品化してくれたりしています。私たちもちろん、エンドユーザーの皆さんの声を聞くなど色々なマーケティングをしてはいるものの、思惑通りにいかないことも多く試行錯誤し苦労していますが、やはり生産者のみなさんが一番大変なのです。関わっている若い人たちの生活もありますから、ミカン一筋に生きている者として、その可能性を何とか目に見える形にできるようにしていきたいと考えています。新しい選果場はその一つ、未来投資なのです。生産者の方がしっかりと維持できるよう、そして消費者の皆さんには美味しさと健康をお届けできるよう、これからも頑張っています。

【対談を終えての竹内COOの感想】

井口組合長のミカンに対する造詣の深さ、注ぎ込む愛情を強く感じた対談でした。対談中に机上にあったミカンを1個頂きましたが、甘さ以上に生産者の方の愛情と、選果場で選別された品質を感じることができました。今まで食べたことのない、深みのある味でした。未来のミカン流通の可能性まで今から考えておられる姿勢にも感銘を受けました。三ヶ日の選果場、本当に素晴らしいです。時間が経つのを忘れるほどの迫力に加え、美しさも感じられました。



対談を終えて、三ヶ日みかんのミカちゃん和記念撮影

大河ドラマへ向けて旅行会社担当者へのFAMツアーを実施

11月14日、15日の2日間で旅行会社の商品造成担当者を対象としたFAMツアー（現地視察ツアー）を実施しました。参加者は主に首都圏、中京圏、関西圏から14社18名の参加がありました。ツアーは家康公ゆかりの地として浜松城、清龍寺、浜松八幡宮、犀ヶ崖資料館等を巡ったほか、開館に向けて準備の進む大河ドラマ館を見学しました。また、商談会を開催し、地域内14社と旅行会社が商談を実施しました。



ツーリズムEXPOジャパン 2022へ出展

9月22日から25日に東京ビッグサイトにて開催された国内最大の旅行博ツーリズムEXPOジャパン2022へ静岡県観光協会と共同で出展しました。業界日2日間では主に大河ドラマ関係の商品造成について14社と商談を実施しました。一般公開日2日間では県ブースとしてクイズラリー企画を実施し、当地域のPRやパンフレットの配布を行いました。

ぬり絵でめぐる浜松・浜名湖

『3匹のわんこと8つの宝玉』完成

地域住民のシビックプライド(地域への愛情や誇り)の醸成を目的としたぬり絵ブック、「ぬり絵でめぐる浜松・浜名湖『3匹のわんこと8つの宝玉』」が完成しました。「浜松・浜名湖すごいもの50撰ポスター」「海の湖教科書」を発展させた冊子で、ぬり絵を通じて浜松・浜名湖地域の魅力を感じていただく内容です。谷島屋静岡県下9店舗、BOOKアマノ市内5店舗、(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューローにて1冊税込1,200円で販売しております。ぜひご覧ください。



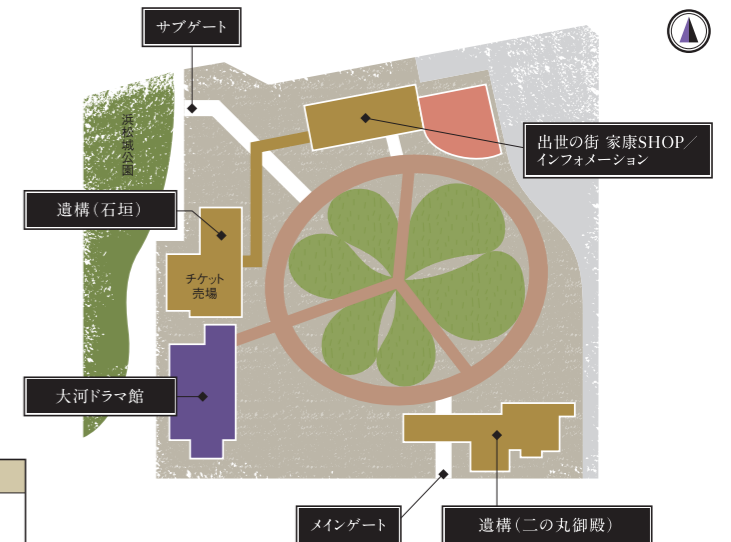
速旅 アメイジングガーデン・浜名湖ドライブプラン発売中

NEXCO中日本さんの協力のもと、高速道路のETC割引と浜名湖ガーデンツーリズム共通入場券2枚がセットになったお得なドライブプラン（2日間有効）を発売しています。浜名湖ガーデンツーリズム共通入場券は、構成庭園7施設の有料5施設のうち3施設に入場可能なチケットで、世界一美しい桜とチューリップの庭園が有名なままつラワーパークや、「おんな城主 直虎」の舞台にもなった井伊家の菩提寺・龍潭寺、庄屋屋敷と花菖蒲のコントラストが見事な加茂荘花園などで利用できます。プランは「名古屋・豊田→遠州周遊プラン」と「静岡県内周遊プラン」の2種類。これを活用して、お得にお出かけしてみたいかがでしょうか。



令和5年 1月22日(日)～2月28日(火) スレオースン
 ※2023年3月1日～17日は展示入れ替えのため休館します。
 令和5年 3月18日(土)～令和6年 1月14日(日) グランドオースン
 開館時間 10:00～18:00
 場所 浜松市中区元城町102-1(浜松城東)

大河ドラマに登場した小道具や衣装、ストーリーやキャスト紹介のパネル展などを見ながら、『どうする家康』の世界観を体感できる「大河ドラマ館」。『どうする家康』基本情報のほか、「歴代大河ドラマが描いた徳川家康」についての展示「プレオープン」と浜松が描かれるストーリー展開にむけた展示「グランドオープン」と期間を分けて開館します。



| 【入館料】 | 大人 | 小人 |
|--|------|------|
| 事前販売チケット (販売期間) ~2023/3/17 | ¥640 | ¥320 |
| プレオープンチケット (販売期間) 2023/1/22~2/28 | ¥400 | ¥200 |
| グランドオープンチケット (販売期間) 2023/3/18~2024/1/14 | ¥800 | ¥400 |

※事前販売券購入者は、プレオープン期間中に1回無料で入場可
 ※障がい者手帳または療育手帳所有者および付添人(1人)、未就学児は無料

チケットのお買い求めは、公式サイトをご確認ください。
<https://hamamatsu-ieyasu.com/doramakan/>



問い合わせ先

どうする家康 浜松 大河ドラマ館 運営管理事務局 10:00~17:30(土・日・祝休み)

静岡県浜松市中区田町324-3 出雲殿互助会田町ビル6F(東武トップツアーズ株式会社 浜松支店内)
 TEL: 050-3154-0830 info@ieyasu-hamamatsu.jp